

平成22年12月期 第1四半期決算短信

平成22年4月28日

上場会社名 アンジェス MG株式会社
 コード番号 4563 URL <http://www.anges-mg.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部マネージャー
 四半期報告書提出予定日 平成22年4月30日
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 山田 英
 (氏名) 桑本 知明

上場取引所 東
 TEL 03-5730-2753

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年12月期第1四半期の連結業績(平成22年1月1日～平成22年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第1四半期	75	△57.9	△507	—	△432	—	△444	—
21年12月期第1四半期	178	—	△775	—	△633	—	△639	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
22年12月期第1四半期	△3,765.25	—
21年12月期第1四半期	△5,433.22	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円銭	百万円	円銭	%	円銭
22年12月期第1四半期	6,856	—	6,096	—	87.3	50,720.14
21年12月期	7,162	—	6,512	—	89.5	54,345.29

(参考) 自己資本 22年12月期第1四半期 5,984百万円 21年12月期 6,412百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
21年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年12月期	—	—	—	—	—
22年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年12月期の連結業績予想(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
第2四半期連結累計期間	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	500 ～800	—	△2,400 ～△2,100	—	△2,300 ～△2,000	—	△2,300 ～△2,000	—	△19,493.01 ～△16,950.45

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年12月期第1四半期 117,991株 21年12月期 117,991株

② 期末自己株式数 22年12月期第1四半期 一株 21年12月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年12月期第1四半期 117,991株 21年12月期第1四半期 117,751株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、現時点において、入手可能な情報及び将来の業績に与える不確定要因に関する仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因により上記の予想とは異なる可能性があります。

なお、上記業績予想に関する事項は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 連結業績予想に関する定性的情報」を参照してください。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、経済政策の効果等を背景に回復の兆しが見えてきたものの、雇用情勢の悪化やデフレの影響及び海外景気の下振れ懸念により、いまだ先行き不透明な状況でありました。

わが国の医薬品業界においては、医療費抑制政策により医療用医薬品市場の伸び率が鈍化する一方、大手製薬会社においては主要薬品の特許期限切れを控え、グローバルな新薬開発や新市場開拓を見据えたM&Aが盛んに行われており、業界内での淘汰再編がさらに進んでいくことと思われま

す。このような状況の下、当社グループ（当社及び連結子会社3社）では、遺伝子医薬品の研究開発を着実に進めるとともに、新たな提携候補先との契約交渉を行うなど、事業の拡大を図ってきました。

当第1四半期連結会計期間の事業収益は75百万円（前年同期比1億3百万円（△57.9%）の減収）となりました。

当社グループでは、医薬品事業において、虚血性疾患治療剤「コラテジェン」（HGF遺伝子治療薬）の医薬品開発の進捗に伴い、提携企業より開発協力金を受け入れ、事業収益として計上しております。

また、平成20年4月より販売を開始いたしましたムコ多糖症VI型治療薬「ナグラザイム」の販売収入につきましても、医薬品事業の事業収益に加えております。

医薬品事業以外のその他の事業については、HVJ-E非ウィルス性ベクター遺伝子機能解析用キットや、NF-κBデコイオリゴを含むデコイ型核酸医薬に関して、提携企業より、これら研究用試薬の販売額の一定率をロイヤリティとして受け入れ、事業収益に計上しております。

当第1四半期連結会計期間における事業費用は、5億82百万円（前年同期比3億71百万円（△38.9%）の減少）となりました。内訳は、売上原価が16百万円（前年同期比2百万円（+21.4%）の増加）、研究開発費3億77百万円（前年同期比3億84百万円（△50.5%）の減少）、販売管理費は1億88百万円（前年同期比10百万円（+5.8%）の増加）です。事業費用減少の主な要因は、Allovetin-7の開発に関する米国バイカル社への開発協力金負担の減少によるものです。なお、研究開発の詳細は11ページの「6.その他の情報 研究開発の状況」をご覧ください。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の営業損失は5億7百万円（前年同期の営業損失は7億75百万円）となり、前年同期より2億68百万円の損失減少となりました。

当第1四半期連結会計期間の経常損失は4億32百万円（前年同期の経常損失は6億33百万円）となりました。これは、営業損失の減少に加えて、主にNEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）及び特定非営利活動法人近畿バイオインダストリー振興会議からの開発助成金収入の増加によるものです。

当第1四半期連結会計期間の四半期純損失は、4億44百万円（前年同期の四半期純損失は6億39百万円）となっております。主に特許権の除却処理に伴い、固定資産除却損9百万円を計上しております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産は68億56百万円（前連結会計年度末比3億5百万円の減少）となりました。流動資産は、ナグラザイムの商品在庫が93百万円増加しましたが、主に当期事業費用への充当により現預金が3億69百万円減少し、56億30百万円（前連結会計年度末比3億4百万円の減少）となりました。一方、固定資産は、12億26百万円（前連結会計年度末比0百万円の減少）となりました。市場価格の上昇や投資事業組合への追加出資に伴い、投資有価証券が28百万円増加した一方、特許権が18百万円減少しております。

当第1四半期連結会計期間末の負債は7億59百万円（前連結会計年度末比1億10百万円の増加）となりました。内訳は流動負債7億59百万円（前連結会計年度末比1億10百万円の増加）となっております。主にナグラザイムの仕入により買掛金が1億13百万円増加しております。

純資産は60億96百万円（前連結会計年度末比4億16百万円の減少）となりました。これは、その他有価証券評価差額が15百万円増加しているものの、四半期純損失の発生に伴い利益剰余金が4億44百万円減少していることが主な要因です。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ6億30百万円増加し、36億79百万円となりました。当第1四半期連結会計期間のキャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

営業活動の結果使用した資金は、3億49百万円(前年同期は5億91百万円の資金の使用)となりました。税金等調整前四半期純損失が1億94百万円縮小したことが主な要因となり、前年同期より使用した資金は2億41百万円減少しております。

投資活動の結果得られた資金は、9億78百万円(前年同期は5億87百万円の資金の獲得)となりました。前年同期と比較して、定期預金の預入による支出5億円が無くなり、有価証券の償還による収入が2億円増加した一方で、有価証券の取得による支出3億2百万円が発生したため、前年同期より3億91百万円の収入増加となりました。

財務活動の結果使用した資金はありません(前年同期は0百万円の資金の使用)。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループは創薬系バイオベンチャーです。平成20年4月にムコ多糖症VI型治療薬「ナグラザイム」を発売したものの、多くの開発品については医薬品開発を行う先行投資の段階にあります。当社グループでは、当期の事業収益として、「ナグラザイム」の販売による収益に加え、虚血性疾患治療剤「コラテジェン」の開発進捗に伴う開発協力金、マイルストーン、さらには新たな提携企業からの契約一時金等を計上する予定です。

但し、当期の見通しについては、医薬品開発の進捗状況及び新たな提携候補先との交渉状況に依存する度合いが高く、現時点では不確実性が高いため、これら医薬品開発の進捗や新たな契約締結の可能性などを考慮し、開示する予想数値には幅を持たせております。

当社グループの第1四半期連結累計期間の業績は、事業収益、営業損失、経常損失及び当期純損失ともに、ほぼ計画通りに推移しております。そのため、平成22年12月期の連結業績予想としては、平成22年2月5日の決算発表時に公表致しました通り、事業収益500～800百万円、営業利益△2,400～△2,100百万円、経常利益△2,300～△2,000百万円、当期純利益△2,300～△2,000百万円を見込んでおり、変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

棚卸資産の評価方法について、当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,179,738	3,549,098
売掛金	68,049	64,648
有価証券	1,500,992	1,498,278
商品及び製品	126,930	33,447
仕掛品	62	1,798
原材料及び貯蔵品	454,437	480,416
前渡金	256,477	247,132
前払費用	22,591	28,215
立替金	1,190	1,089
その他	20,287	31,300
流動資産合計	5,630,757	5,935,426
固定資産		
有形固定資産		
建物	58,604	58,599
減価償却累計額	△43,942	△43,276
建物(純額)	14,661	15,322
機械及び装置	53,091	53,091
減価償却累計額	△51,731	△51,607
機械及び装置(純額)	1,360	1,483
工具、器具及び備品	399,783	400,778
減価償却累計額	△359,807	△356,761
工具、器具及び備品(純額)	39,976	44,016
有形固定資産合計	55,997	60,823
無形固定資産		
特許権	177,016	195,654
その他	13,829	16,561
無形固定資産合計	190,846	212,215
投資その他の資産		
投資有価証券	858,237	829,443
敷金及び保証金	54,798	54,784
その他	66,241	69,453
投資その他の資産合計	979,277	953,681
固定資産合計	1,226,121	1,226,720
資産合計	6,856,879	7,162,146

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	162,315	49,134
未払金	38,325	42,199
未払費用	6,587	11,161
未払法人税等	10,427	23,821
前受金	533,577	515,101
預り金	8,764	7,799
流動負債合計	759,998	649,218
負債合計	759,998	649,218
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,460,618	9,460,618
資本剰余金	7,771,361	7,771,361
利益剰余金	△11,602,351	△11,158,086
株主資本合計	5,629,627	6,073,893
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	386,053	370,141
為替換算調整勘定	△31,160	△31,780
評価・換算差額等合計	354,892	338,361
新株予約権	112,360	100,673
純資産合計	6,096,880	6,512,927
負債純資産合計	6,856,879	7,162,146

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
事業収益		
商品売上高	27,752	34,394
研究開発事業収益	150,615	40,691
事業収益合計	178,368	75,085
事業費用		
売上原価	13,317	16,167
研究開発費	762,399	377,673
販売費及び一般管理費	178,578	188,916
事業費用合計	954,295	582,756
営業損失(△)	△775,926	△507,671
営業外収益		
受取利息	4,958	3,285
補助金収入	143,343	73,177
雑収入	978	2,620
営業外収益合計	149,279	79,083
営業外費用		
株式交付費	201	—
為替差損	6,529	4,103
雑損失	16	—
営業外費用合計	6,747	4,103
経常損失(△)	△633,394	△432,691
特別損失		
固定資産除却損	2,963	9,107
特別損失合計	2,963	9,107
税金等調整前四半期純損失(△)	△636,357	△441,798
法人税、住民税及び事業税	3,409	2,466
法人税等合計	3,409	2,466
四半期純損失(△)	△639,767	△444,265

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△636,357	△441,798
減価償却費	31,213	25,532
受取利息	△4,958	△3,285
為替差損益(△は益)	5,360	△756
固定資産除却損	2,963	9,107
株式交付費	201	—
株式報酬費用	11,955	11,687
売上債権の増減額(△は増加)	△13,612	△3,400
たな卸資産の増減額(△は増加)	△32,981	△65,766
仕入債務の増減額(△は減少)	102,126	113,181
前渡金の増減額(△は増加)	△12,828	△9,345
未払金の増減額(△は減少)	4,527	△3,993
前受金の増減額(△は減少)	△44,408	18,475
その他の流動資産の増減額(△は増加)	18,059	17,639
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△18,502	△15,857
小計	△587,239	△348,580
利息の受取額	7,134	4,719
法人税等の支払額	△11,237	△5,654
営業活動によるキャッシュ・フロー	△591,342	△349,515
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△500,000	—
定期預金の払戻による収入	500,000	500,000
有価証券の取得による支出	—	△302,027
有価証券の償還による収入	600,000	800,000
有形固定資産の取得による支出	△2,150	△810
有形固定資産の売却による収入	—	19
無形固定資産の取得による支出	△7,635	△4,338
投資有価証券の取得による支出	—	△14,000
長期前払費用の取得による支出	△2,719	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	587,493	978,843
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	△201	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△201	—
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,323	1,292
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,726	630,619
現金及び現金同等物の期首残高	5,799,571	3,049,098
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,797,845	3,679,718

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第1四半期連結会計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)

当第1四半期連結累計期間において、医薬事業の事業収益、営業利益の金額は全セグメントの事業収益の合計額、営業利益の合計額の90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)

当第1四半期連結累計期間において、医薬事業の事業収益、営業利益の金額は全セグメントの事業収益の合計額、営業利益の合計額の90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)

	日本 (千円)	北米 (千円)	欧州 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
事業収益及び営業損益						
(1) 外部顧客に対する事業収益	178,368	—	—	178,368	—	178,368
(2) セグメント間の内部事業収益又は振替高	—	63,189	1,592	64,781	(64,781)	—
計	178,368	63,189	1,592	243,150	(64,781)	178,368
営業利益又は営業損失(△)	△778,468	3,009	75	△775,383	(542)	△775,926

(注) 1 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2 本邦以外の区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

- (1) 北米……米国
- (2) 欧州……英国

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)

	日本 (千円)	北米 (千円)	欧州 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
事業収益及び営業損益						
(1) 外部顧客に対する事業収益	75,085	—	—	75,085	—	75,085
(2) セグメント間の内部事業収益又は振替高	—	59,395	1,596	60,992	(60,992)	—
計	75,085	59,395	1,596	136,077	(60,992)	75,085
営業利益又は営業損失(△)	△510,352	2,593	87	△507,671	—	△507,671

(注) 1 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2 本邦以外の区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

- (1) 北米……米国
- (2) 欧州……英国

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間(自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)
 海外売上高がないため、該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)
 海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
平成21年12月31日残高(千円)	9,460,618	7,771,361	△11,158,086	6,073,893
四半期連結会計期間中の変動額				
四半期純損失			△444,265	△444,265
四半期連結会計期間中の変動額 合計(千円)			△444,265	△444,265
平成22年3月31日残高(千円)	9,460,618	7,771,361	△11,602,351	5,629,627

6. その他の情報

研究開発の状況

当社グループでは、以下のプロジェクトを中心に研究開発を進めました。

虚血性疾患治療剤「コラテジェン」(HGF遺伝子治療薬)については、重症虚血肢を有する閉塞性動脈硬化症及びパーヴァー病を適応症として、平成20年3月に国内において製造販売承認申請をいたしました。現在は規制当局による審査を受けており、第一三共株式会社との独占的販売契約の下で、両社でコラテジェンの上市に向けた準備を進めております。

米国の開発に関しては、第Ⅲ相臨床試験プロトコールについて、アメリカFDA(米国食品医薬品局)とSPA(Special Protocol Assessment)を平成21年11月23日付で合意をうけ、現在米国第Ⅲ相臨床試験の共同開発を実施するパートナー候補との提携交渉中であり、提携が決定次第、試験を開始したいと考えております。

NF-κBデコイオリゴに関しては、アトピー性皮膚炎適応の開発パートナーを選定し、国内第Ⅲ相臨床試験を進めたいと考えております。現在は、平成22年3月29日に発表致しましたとおり、グローバル開発が可能な塩野義製薬株式会社との間で、共同開発に関する協議を進めております。

さらに、NF-κBデコイオリゴの次世代型として株式会社ジーンデザイン、ホソカワミクロン株式会社及び大阪大学との間において、新規構造を有する核酸ハイブリッドデコイにより難治性炎症性疾患に対する医薬品開発を目指す産学4者共同研究開発を進めております。

また、PTAバルーンカテーテルの外表面に抗炎症薬NF-κBデコイを塗布し、バルーン拡張時に発生する血管炎症を強力に抑制する事で「再狭窄」を予防する新世代の医療機器の開発プロジェクトを、NEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)の助成のもとで行っております。現状の末梢血管内治療法では血管の再狭窄率が高く「再狭窄予防」が期待できるPTAバルーンカテーテルが求められており、本製品の開発によりカテーテル血管拡張の再処置や外科的バイパス手術の回避が可能になり、患者QOLの向上や患者負担の軽減が期待できます。

抗菌作用を有する機能性ペプチドに関しては、平成21年4月より森下仁丹株式会社と共同で研究を実施しており、同社の傷あて剤などの医療機器における強みを生かして、応用製品の共同研究を進めてまいります。

GEN0101については、子会社ジェノメディア株式会社において前臨床試験を進めておりますが、平成21年1月に株式会社TSD Japanに対し、前立腺癌分野の国内での独占的製造、開発、販売権を供与するライセンス契約を締結いたしております。GEN0101については、前立腺癌を対象とした臨床応用に必要な安全性試験、薬効薬理試験、安定性試験のそれぞれについてデータの取得をほぼ完了しております。

転移性メラノーマ(悪性黒色腫)治療薬Allovetin-7については、提携先の米国バイカル社において第Ⅲ相試験を国際共同治験(15カ国)として実施しております。転移性メラノーマは進行が早く生存率が低い難病ですが、既存薬は治療効果が低く副作用が強いことから、より有効で安全性に優れた治療薬が求められております。Allovetin-7は、免疫の賦活化(活性化誘導)により腫瘍細胞を直接攻撃して除去する新しいメカニズムの免疫誘導型の癌治療ワクチンであり、安全性、有効性ともに既存薬を上回る新薬として期待されております。なお、本剤の開発については既にバイカル社と米国FDAとの間でSPA合意がなされており、平成22年1月に症例登録を終了した後、現在臨床試験の最終段階を実施中です。

医薬品開発の状況

(自社品)

区分	製品名/プロジェクト	適応症	地域	開発段階	主な提携先
医薬品	コラテジェン (HGF遺伝子治療薬)	重症下肢虚血 (閉塞性動脈硬化症の重症)及び パーヴァー病	日本	申請中	第一三共株式会社 (販売権供与)
			欧米	第Ⅲ相準備中	未定
		虚血性心疾患	日本	臨床準備中	第一三共株式会社 (販売権供与)
			米国	第Ⅰ相	未定
				前臨床	未定
NF-κBデコイオリゴ	アトピー性皮膚炎	日本	第Ⅱ相	未定	
		欧米	前臨床		
医療機器	薬剤塗布型 PTAバルーン カテーテル	血管再狭窄予防		臨床準備中	メディキット株式会社 ホソカワミクロン株式会社 (共同研究)
	機能性ペプチド	創傷		応用研究中	森下仁丹株式会社 (共同研究)

(提携開発品)

区分	製品名/プロジェクト	適応症	地域	開発段階	開発企業	当社の権利
医薬品	Allovectin-7 (遺伝子治療薬)	悪性黒色腫 (メラノーマ)	欧米	第Ⅲ相	バイカル社(米)	米国等売上高に対するロイヤリティ 受取権、アジアの 開発販売権

(連結子会社ジェノメディア株式会社の開発品)

区分	開発コード	適応症	地域	開発段階	主な提携先
医薬品	GEN0101	前立腺癌	日本	前臨床	株式会社TSD Japan (製造開発販売権供与)